

二年前、宝小学校の四年生が、総合学習の一環で上大幡の春日神社で歌舞伎の発表会を行いました。近所の人を誘って見に行きました。春日神社では、江戸時代から地域の人が歌舞伎をやっている舞台が残されていて観客も五十人以上いて子どもたちも学校で発表するのとは違う雰囲気張り切って演じていました。

大幡歌舞伎の歴史は古く、衣装を保存する箱には万延元年申八月と記されていたので古い古くから行われていたことがわかります。残念ながら、いつの頃から保存していた倉庫の雨漏りで豪華な衣装やかつら、台本などもだめになってしまいました。台本の一部は現在神楽保存会の人々がたまたまとってあって、宝小の先生がそれを借りて上演に生かしたと言うことでした。大幡歌舞伎については、私も興味があって一時期資料を探したりお年寄りに話を聞いて調べたことがありました。

驚くのは、農作業が忙しい時期でも家族には畑へ行くといつて家を出て、芝居の練習を公演(?)二ヶ月前からやっていたという話でした。そこには、生活と文化が一体化した姿が見えます。

大幡歌舞伎は中断を繰り返しながら昭和二十年頃まで行われ宝小の公演はそれ以来と言うことになります。演目は三番叟と絵本太功記十段目であることか

かしいねえ昔は部落の人がみんな集まっ

てすごい騒ぎだったよ。』と嬉しそうに話しかけてきた。私も柱だけが残った舞台で演じる子どもたちの姿に地域の文化の中心を担っていたその頃の人達の心意気が伝わってくるようでした。歌舞伎は今

はありますが、神楽保存会は健在で若い人達も増えて盛んになっています。宝小の四年生の活動は大変貴重です。歌舞伎の発表会の文書には次のように書かれていました。

「私達は総合学習で宝の宝を見つけようというテーマに取り組みました。調べていくうちに、上大幡の春日神社に歌舞伎の舞台があって、昔、歌舞伎が行われていたことを知りました。

今は、お祭りの時にお神楽を舞うのに使われている舞台ですが、地域の人の話を聞くうちに昔は回り舞台や楽屋、花道があって立派な舞台だったことがわかりました。

また、このような舞台が残っているのも山梨県内でも珍しいということもわかりました。私達は宝地区の大切な宝として、昔、大幡歌舞伎が盛んに行われ、今も舞台が残っているということを伝えて行きたいと思いました。そのためには神社でやってみるのが一番いいと思います。なで挑戦することにしました。」

平成二十二年の十二月、寒さの増す神社での出来事を鮮明に覚えていて、地域や文化のことを子ども達とからめて考えています。



毎月第1日曜日は「家庭の日」

毎月第3日曜日は「青少年を育む日」です。

青少年育成都留市民会議編集委員

連載・青少年健全育成シリーズ 第257回

「地域の文化と子どもたち」

広報「つる」広告募集！

あなたのお店の広告を広報つるに載せてみませんか？
広報「つる」は、都留市内の各家庭に配布されています
(10,500部発行)ので、多くの方の目に触れます！

問合せ：行政管理課 秘書広報担当

広告料金

掲載場所	印刷色	金額 / 枠	備考
裏面	カラー	20,000	2カ月掲載
内面	2色刷り	10,000	2カ月掲載

掲載月は、①1・2月②3・4月③5・6月④7・8月

⑤9・10月⑥11・12月の6パターンとなります。

掲載状況につきましては、下記をご参考としてください。

また、詳細につきましては、ぜひお問い合わせください。

広 告 掲 載 欄

広 告 掲 載 欄